

令和四年度 神村学園中等部入学者選抜学力検査問題 【一般Ⅰ】 その一

国語 (五十分)

(注) 答えはすべて解答用紙に記入すること。

一次の文章は、ヒトの歩行について説明した文章である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(設問の都合上、文章を改めた部分があります)

あなたは草原にいる。遠くからライオンが走ってくる。あなたは恐怖に震え、絶望するに違いない。ついに私の人生もここで終わるのか、と。

でも、もしもあなたがライオンより速く走れたら、どうだろう。ひよっとしたら、しばらくのあいだ、あなたはライオンのことを眺める余裕があるかもしれない。「おお、走ってくる、走ってくる。すごい牙をしてるなあ」とかいいながら、それからおもむろに、あなたは走り出す。ライオンの方に向かってだ。そして、ライオンがあなたに噛みつこうとすると、ひよいと体をかわす。そうしてライオンをおちよくつてから、あなたは悠々と逃げていく。

でも残念ながら、実際にはこうはいかない。多分、あなたは、ライオンにつかまってしまおうだろう。

ヒトは多くの動物に対して、強烈な劣等感を持っている。それは、走るのが遅いからだ。直立二足歩行の最大の欠点は、走るのが遅いことなのだ。これは、自然界で生きていくには致命的な欠点だ。

ヒトの一〇〇メートル走の世界記録は、二〇〇九年にウサイン・ボルトが出した九秒五八である。将来、ヒトはこの記録を大幅に短縮し、ついに九秒を切る日が来るかもしれない、という意見がある。ただし、それはヒトが四つ足で走れば、の話だ。

ヒトの四足歩行一〇〇メートルのギネス世界記録(そういうものがあるのだ)は、二〇〇八年には十八秒五八だったが、二〇一五年には一五秒七二にまで短縮された。七年で三秒も短縮されたということは、まだ四足歩行についてはフォームなどの研究が進んでいないことを示している。ということは、これからまだまだ記録が短縮されるということだ。A、この調子で記録が短縮されていけば、ついに九秒を切る可能性があるというのである。B、現在の世界記録保持者は日本人の、いとうけんいち、である。

将来、ヒトが四足歩行で一〇〇メートルを九秒以内で走れるようになるかどうかは、わからない。しかし、ヒトが四足歩行でもかなり速く走れることは確かだろう。ヒトのように、直立二足歩行に適應した体を持つ生物でさえ、四足歩行でこんなに速く走れるのだ。やっぱり速く走るためには、四足歩行が適しており、直立二足歩行は適していないのだ。

ひよっとしたら、初期の人類は、そもそも走ることにすらできなかったかもしれない。足の指が長いので走りにくかっただろうし、走るときに使うお尻の筋肉(大殿筋)も発達していなかったからだ。初期の人間は、歩くときには相変わらず四つ足だった可能性もある。もっとも初期の人類が四つ足で走っていた証拠はないので、これは想像にすぎないけれど。

(更科 功『若い読者に贈る美しい生物学講義——感動する生命のはなし』より)

1 ———線①「おもむろに」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 楽しそうに イ いそいで ウ こっそり エ ゆっくりと

2 ———線②「こうはいかない」について次のようにまとめたとき、「こう」の内容をあきらかにして、空らんに入る適当な文を十五字前後で書きなさい。

あなた(＝ヒト)が、こと。

3 ———線③「強烈な劣等感」について、次の各問いに答えなさい。

I 「強烈な劣等感」とは、具体的にどのようなことですか。二十字以上二十五字以内で書きなさい。

II 「強烈な劣等感」と似たような意味で用いられている言葉を、六字と十二字でそれぞれ書きぬきなさい。

令和四年度 神村学園中等部入学者選抜学力検査問題 【一般Ⅰ】 その二

国語 (五十分)

(注) 答えはすべて解答用紙に記入すること。

4 —線④「九秒を切る日が来る」について、そのために必要なことを二十五字以内で書きなさい。

5 文章中の **A**・**B** にあてはまるものとして適切なものを、次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。
ア ちなみに イ しかし ウ よって エ そして

6 初期の人類の歩行について筆者が想像したことを、解答らんにあうように、文章中から十六字と十七字で書きぬきなさい。

7 文章の内容を説明した文として適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ヒトは直立二足歩行に適した体をしているが、四足歩行でも九秒を切るタイムを出せた。
イ ヒトは直立二足歩行に適した体をしているため、九秒台で走ることが出来る人もいる。
ウ ヒトは直立二足歩行に適した体をしているため、四足歩行で走る選手は日本人しかいない。
エ ヒトは直立二足歩行に適した体をしているが、腕を振ることでさらに速く走ることができる。

二 ぼく(木下広葉)は中学一年生で、栽培委員会に所属している。広葉は、一年ほど前からマスクをつけていないと家から出られなくなっていたが、ある日、雨の中での作業時についてマスクをはずしてしまった。それをふまえて次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問の都合上、文章を改めた部分があります)

翌朝、ぼくは少し迷ったものの、マスクをつけるのはやめた。不安が強くなったらいつでもつけられるように、ジャージのズボンのポケットにつっこむ。(中略)
昨日、菊池さんに「いいね」なんて言われて舞いあがったけど、家に帰ってお風呂につかったら冷静になった。

菊池さんが言った「いいね」は、表情が見えるのはいいいね、という意味だ。別にぼくの顔がいいとか、ぼくに好意を寄せているという意味じゃない。

ぼくだって女の子にかっこいいと思われたという願望がないわけじゃないから、つい浮かれてしまったけど、まあ、そんな好意的なこと、この先も言われることはないだろう。

それでもマスクをはずして登校する気になったのは、菊池さんの言うとおり、表情が見えないのは、とっつきにくいだろうと思ったからだ。

マンガによくある、仲間と強い友情で結ばれるという世界に憧れていた。でも、どうしたら、そんな友だち関係が築けるのかわからなかった。自分には無理だと、あきらめていた。

マンガのようなことは、自分には起きない。ありえないことを期待するのはやめて、現実を見よう。空回りして人から冷たい目で見られるぐらいなら、傷つかない場所において、当たりさわりのないつきあいをするのが一番いい。

——そう思っていた。

『本当にダメなときは (A) のことで精一杯で、植物まで気が回らない……』
※2 早川先生の言葉が、耳によみがえる。

あのととき、ぼくは小学生のころよりはマシになった気がしていた。

でも、そうじゃなかった。やつぱり、いまでもぼくは、自分を守ることと精一杯だ。菊池さんみたいに、当たって砕ける勢いで友だち関係を築くのは、ぼくには難しい。けど、一步だけ、自分の枠から外に出てみたいと思った。

植物栽培は、相手を知らなければ育めない。

たぶん友だち関係も同じだろう。相手を知らうとすることと、心を開いて自分を知ってもらう努力をしないと、親しい関係なんて築けない……んじゃないかな。

エレベーターのドアが開くと、ぱあっと、明るい日射しに包まれた。深夜まで降っていた雨が上がり、雲の間から日が射

令和四年度 神村学園中等部入学者選抜学力検査問題 【一般Ⅰ】 その三

国語 (五十分)

(注) 答えはすべて解答用紙に記入すること。

している。

ぼくは、歩道の水たまりを避けながら歩いていった。

ドクン、ドクンと、心臓が音をたてる。

ポケットに手を入れてマスクに触れた。大丈夫、まだ行ける。

横断歩道を渡ると、フェンスの向こうにグラウンドが見えた。水色のジャージを着た生徒たちが、グラウンドにしゃがんでい
る。体育委員が水たまりの泥水をぞうきんで吸い^すっては、バケツにしぼっているようだ。

花壇^{かだん}はどうなっているだろう。

④ ぼくは鼓動^{こどう}が速くなるのを感じながら、正門に近づいた。ブルーシートに水たまりができていているものの、花と葉はしゃんと上
を向いている。

よかった。へたってない。

シートの上にたまっている雨水を流そうとブルーシートに手をかけると、パタパタとかけよってくる足音がした。

「水を流すの？」

※1くどう

工藤^{くどう}がとなりに立って、ブルーシートをにぎった。

「ああ、ありがとう。頼む^{たの}」

マスクをとったぼくの顔を見て、工藤が言った。

「花粉症^{かふんしょう}おさまったの？」

「うん、まあ」

「よかったな」

やさしい声だった。これまで工藤からマスクについて聞かれたことはなかったけど、気にしてくれていたのかな、と思った。

(ささきあり 『天地ダイアリー』より)

※1 菊池さん・工藤：広葉のクラスメイト。

※2 早川先生：広葉のクラスの担任で、栽培委員会の顧問^{こもん}。

1 — 線① 「マスクをつけるのはやめた」について、次の各問いに答えなさい。

I それはなぜですか。文章中から二十六字で探し、始めと終わりの五字をそれぞれ書きぬきなさい。

II それまで、広葉がマスクをつけていた表向きの理由はなんでしたか。「くのため。」につながるよう、文章中から三字
で書きぬきなさい。

2 — 線② 「舞いあがった」と同じような意味で用いられている言葉を文章中から八字で書きぬきなさい。

3 — 線③ 「どうしたら、そんな友だち関係が築けるのか」とありますが、この文章で広葉が友だち関係を築くために必要
なのではないかと考えたことを、文章中の言葉を使って三十字前後で書きなさい。

4 文章中の (A) にあてはまる言葉を文章中から二字で書きぬきなさい。

5 — 線④ 「ぼくは鼓動が速くなるのを感じながら」とありますが、広葉の鼓動が速くなっている理由として適切でないも
のを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 昨日の雨で花壇がどうなっているのか心配だったから。

イ 約一年ぶりにマスクをつけずに外出したことへの不安を感じているから。

ウ マスクをつけないまま、たくさんの生徒たちの中にいることに緊張^{きんじょう}しているから。

エ 学校まであわててやってきたため、息が切れたから。

令和四年度 神村学園中等部入学者選抜学力検査問題 【一般Ⅰ】 その四

国語 (五十分)

(注) 答えはすべて解答用紙に記入すること。

6 この文章でえがかれていることについて次のようにまとめたとき、 にあてはまる言葉を文章中から四字で書きぬきなさい。

当たりさわりのないつきあいが一番いいと思っていた広葉が、周りの人たちとの関わりの中で少しずつ 外に出ようとする姿。

7 これからの広葉の先行きが明るくひらけていくことを象徴する(しよんてい)ような情景(けいけい)がえがかれたひと続きの二文を文章中から探し、その初めの五字を書きぬきなさい。

3 あなたの職業は建築士(けんちくし)(建物を設計する仕事)です。ある日、大室蔵之介(おむろくらのすけ)さんから「新しい家の設計をお願いしたい。」と依頼(いらい)を受けました。次の資料は、大室さん家族についての情報です。これを参考に、あなたならどんな家を建てるか、あとの《注意》をよく読んで作文を書きなさい。

大室蔵之介(父)： 会社員。スニーカーを買い集めるくせがある。足のサイズが大きい。
望結(母)： 保育士。今の家は日当たりが悪く、洗濯物(せんたくもの)がかわかないことが悩み。
太一(子)： 中学三年生。料理を作ることが好き。将来の夢は調理師として働くこと。
まりん(子)： 小学六年生。毎日、窓に映る自分を見ながらバレエの練習をしている。
サラ(犬)： 大室家の飼い犬。二歳(さい)。体を動かすことが好き。

《注意》 (1) 四行以上五行以内で書くこと。

- (2) 原稿用紙の使い方にしたがって書くこと。
(3) 家や部屋の具体的な特徴(とくちょう)(〇〇がある家「広い△△」など)を書くこと。
(4) (3)のように考える理由を書くこと。
(5) 大室さんたち全員にあわせる必要はないので、あなたが考えたことを自由に書くこと。

四 次の各問いに答えなさい。

1 次の——線部分の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

- ① 作業の能率を上げる。 ② キヤプテンという重責を果たす。 ③ 文武両道がんばります。
④ チェックがらの布地でできた服。 ⑤ ヒョウバンのよい店。 ⑥ キュウキュウシヤを呼んでください。
⑦ 海外でのニンムを終える。 ⑧ 授業の内容をフクシユウする。 ⑨ 天気ヨホウを確認する。
⑩ ベンカイをしてもむだだ。

2 次の()にあてはまる言葉を下から選んで記号で入れ、ことわざ・慣用句を完成させなさい。

- ① ()の上にも三年 … つらいこともがまんしていれば結果が出る。
② ()をさす … あらかじめ念をおしておく。
③ ()が立たない … まったくかなわない。
④ ()がいい … 自分にとってつごうがいいようにふるまう。
⑤ ()を売る … 仕事をさぼって時間をつぶす。
⑥ ()の耳に念仏 … いくらよいことをいってもむだである。

ア	歯	イ	馬
ウ	石	エ	油
オ	虫	カ	くぎ

3 次の漢字の部首名をひらがなで書きなさい。

- ① 独 ② 割 ③ 安 ④ 熱